

第 2 2 回会議で指摘のあった事項に関する資料

平成 2 0 年 4 月 3 0 日 厚生労働省

公的年金制度改革に伴う社会保険オンラインシステムの開発に関する改善方策

【 基本的な考え方 】

- 社会保険業務の基盤である社会保険オンラインシステムについては、公的年金制度の見直しに伴うシステム開発を今後とも行っていくことが見込まれるところ。
- これまでのシステム開発においては、制度改革によるシステム開発に要する期間の見通し、又は、法律改正後の施行に向けた政省令等の細則の検討に要する期間の見通しなどが必ずしも十分ではなかったために、結果として、システム開発に追加的な期間や人員を要したことも見受けられたところ。
- 今後は、こうしたことを教訓として十分に踏まえ、システム開発に伴うリスクや要する費用をできる限り少なくできるよう、公的年金制度改革に伴うシステム開発を円滑に行うため、以下の措置を適切に実施。

【公的年金制度改革に伴うシステム開発を円滑に行うための措置】

- 1.（制度改革の企画立案）制度改革による現行のシステムの運用への影響を把握するため、企画立案段階から政策立案部門と日本年金機構及びシステム統括管理部門とあらかじめ十分に協議する。その際、システム開発委員会に参画する外部の有識者の意見も聴取する。
- 2.（制度改革の施行日の設定）制度改革の内容を適正に反映させるための十分なシステム開発期間の確保の必要性について関係者の理解を得るとともに、無理のない開発期間が確保されるよう施行日を設定する。
- 3.（制度改革の細則の検討）制度改革の企画立案・国会での審議・政省令等の細則の検討などを通じた法令運用の考え方を理解し、システムに的確に反映させるため、機構、システム統括管理部門、政策立案部門の担当者が常に協議し、意思疎通を図る。また、政省令等の検討は、開発に要する期間を十分考慮して行う。

システムに係る日本年金機構と厚生労働省の役割の見直し

○ 第22回会議で示したシステムに関する日本年金機構と厚生労働省の役割分担に関する基本的考え方は、次のとおり。

(日本年金機構の役割) システムの開発・管理・運用

→システムの開発基本計画案の作成、費用見積もり、基本設計、詳細設計、業者の進捗管理、業務検証・運用テスト 等

(厚生労働省の役割) システムの統括管理

→システムに係る基本的事項についての企画立案・評価（レガシーシステム刷新や社会保障カードの導入など政府の情報化への対応など）、制度改革に係るシステム企画、予算要求、システム監査 等

○ 上記の基本的考え方を踏まえ、厚生労働省本省に移管する業務及び人員規模について、システム開発の実務はできる限り機構へ集中させる観点から、更に精査・見直しを行った結果、以下のとおり。

<見直し前の役割分担>

システムの開発・管理・運用（日本年金機構 190人程度）

- ・システム開発基本計画案の作成
- ・システム設計・開発段階の進捗管理（業務改善）
- ・業務検証・運用テスト

システムの統括管理（厚生労働省 40人程度）

情報化対応の企画立案・評価、制度改革に係る
システム企画、予算要求（20人程度）

制度改革に係る開発段階の進捗管理（10人程度）

システム監査（10人程度）

<見直し後の役割分担>

システムの開発・管理・運用（日本年金機構 200人程度）

- ・システム開発基本計画案の作成
- ・システム設計
- ・開発段階の進捗管理（制度改革・業務改善）
- ・業務検証・運用テスト

システムの統括管理（厚生労働省 30人程度）

情報化対応の企画立案・評価、制度改革に係る
システム企画、予算要求（20人程度）

システム監査（10人程度）